

平成 26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900719	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	有限会社 ばすてる		
事業所名	どんぐり庵		
所在地	(〒243-0213) 神奈川県 厚木市 飯山 2 2 3 7 - 9		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有限会社ばすてるは、厚木市において、認知症デイ2軒、認知症対応型共同生活介護を2軒運営しております。代表は看護師で以前より認知症の方の行き場所が無い事を問題視しておりました、10年前に普通の民家を改造し認知症デイを始めましたが、大勢の中で着ることのできなかつた認知症の方が、認知症デイでは着きが見られ、職員と一緒に、その人らしい生活が出来る手ごたえを感じ、3年後にグループホームを始めました。当初から看取りを視野に入れての開設ですので元気な方から車椅子の方、様々な方が生活しております。ひとり一人がその人らしい生活を送れるよう私たちは行なえることを最大限に発揮していきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年11月6日	評価機関 評価決定日	平成26年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇利用者本位のケアの姿勢
・事業所の理念である「『～をしたい』が実現できるように環境を整えお手伝いする」を念頭に、職員は利用者の立場に立って気持ちの理解に努め、思いの実現に向け支援している。利用者は食材の買出しや調理、洗濯物たたみ、来客へのお茶だし、掃除など自分のできることや得意なことに取り組んでいる。
◇地域一員としての生活
・自治会に加入し、利用者は地域のどんど焼き、夏祭りや盆踊りに参加し、文化祭には作品を出展するなど地域の一員として活動している。また、事業所の餅つきや夏祭りに住民を招待し、近隣からは野菜の差し入れがあるなど地域住民との交流を深めている。
◇充実した医療体制
・月2回の協力医の往診を受け、医療との連携による24時間対応と、週1回、協力医の看護師と連携して、利用者の健康管理を行っている。法人代表が協力医の看護師長であり、利用者は安心して生活している。
【事業所が工夫している点】
◇月に4～5回、職員に利用者のケアを免除するフリーの日を設定している。職員は誕生日の企画、事業所だよりの作成、花壇づくりなどに充て、利用者の生活が豊かなものになるとともにサービスの向上にもつながっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。(参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

		4. ほとんどいない
--	--	------------

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深め、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えていくことを通して、生き生きとした生活が送れるように支援している。理念は職員会議で、理解できるように話している。個人を尊重し、希望に応じて実現できるように職員間で話し合っている。	・理念に「『～をしたい』が実現できるように環境を整えお手伝いする」を掲げ、利用者のやりたいことを尊重した支援を行っている。 ・理念を事業所内に掲示し、日々のケアに活かされているかを、フロアー会議で話し合い確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、お祭りやどんど焼等の行事に参加している。定期的に地域のミニデイにも出席している。	・自治会に加入し、どんど焼きや盆踊りに参加する一方、事業所の餅つきや夏祭りに住民を招待し、近隣からは野菜の差し入れがあるなど、地域にとけこみ活動している。 ・日舞、手品、ハーモニカ演奏などのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の方からの相談があれば気軽に応じている。入居者の生活や活動内容を載せたミニ新聞を地域や家族に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、ホーム内での活動について報告している。会議で出た意見はスタッフ間で話し合いサービス向上できるようつとめている。	・地域の住民、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族が参加して2か月ごとに開催している。 ・事業所の活動報告後、地域との交流状況等について意見交換を行い、結果を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の52介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。管理者は会の事務局を担当し、市長・市議会とも話し合いの場を設けている。また、市と協力し人材確保や合同研修を行ってサービスの質の向上に取り組む成果を上げている。	・市の介護保険課とは、事業所が役員を務める介護保険事業所連絡協議会の相談会や研修会で顔なじみであり、相談できる体制にある。 ・地域包括支援センターとは、利用者の支援方法や家族への対応について相談できる体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為にしているが、希望があれば一緒に外に行くことにしている。魔の三大ロックについては、最初に説明を受け理解し、日頃から気を付けている。	・入社時研修で身体拘束禁止を学び、日々のケアでは管理者が拘束にあたる具体例を示して指導し、身体拘束をしないケアを徹底している。 ・玄関は不審者侵入対策と利用者の安全確保のため、家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会はある。事業所内で職員による不適切な言動があった場合には注意しているが、夜勤帯の職員1名の場合は定かではない。もしそのような職員がいるときには規定により解雇。リスクである事も事例をあげ説明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、それを受けた者が、内部で学んだ事を発表する場を設けている。新人の為に、これからも継続していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時も時間をかけ理解していただけるようにおこなっている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するようには配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見シートの設置、ご様子記録の送付、ご家族の来所時に要望等を聞きコミュニケーションをとっている。面談し説明・意見を聞くこともある。言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者には行動、表情、態度から思いをくみ取り、意見を反映できるように努力している。	・家族の来訪時や電話連絡時などに意見や要望を聞き取り、出された意見や要望は検討してケアに活かしている。職員の名前が分からないとの意見に、名札着用を実行した。 ・利用者からは、日々の会話の中で聴き取り、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せ細かいことは言わずに見守るようにしている。また提案制度を採用している。年2回職員面談を行っている。	・管理者は職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努める一方、年2回職員と面談を行い、悩みや要望を聴き業務改善に取り組んでいる。 ・職員の提案により、食材や消耗品の購入を業務用スーパーに切り替え、経費の節減を図った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より人員を多く当てるように、土日やイベント時には職員を増員、調整している。賃金面でも能力に応じて格差をつけている。休憩所の整備等も徐々に行っている。昨年度から有給休暇を積極的にとるリフレッシュ休暇制度を導入している。また外部研修への参加・内部研修・メンタルヘルス研修も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと思っている。各委員会を作り職員が主体的に企画立案できるよう時間を設けている。また、自社にて講師を呼び研修会を開催したり、実践者研修への参加を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなくほかの職員も参加できるように配慮している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時点での情報を元に、様子を観察し、話しを聞き安心して生活が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き、不安や要望に応えられるよう努め、家族との信頼関係ができる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	質の向上のためにも力を入れたいと思っている。各委員会を作り職員が主体的に企画立案できるよう時間を設けている。また、自社にて講師を呼び研修会を開催したり、実践者研修への参加を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等の家事は、一緒に行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事で気付いた事や変化があった事は、家族に報告し、共に支え合う関係でいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お誕生日会やイベントの時に御家族に声を掛けて一緒に参加して頂いている。馴染みの場所は、お散歩やドライブで行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の馴染みの人、場所、物を聞き出し作成した「馴染み一覧表」を活用し、関係が途切れないよう個別ケアで支援している。 ・友人や家族の来訪時には、ゆっくりくつろげるよう配慮し、馴染みの理美容室には職員が送迎している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いをして頂いたり、皆様で歌を歌ったりし関わりを大事にしている。居室で過ごされる利用者様もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても御家族の方や利用されてた方に訪問して頂く。又、来やすい環境を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望がある場合は応えている。困難な方は、御家族から言われたような希望に応えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の「『～したい』のお手伝い」を実現させるため、各人のしたいこと、楽しみごと、役割などを入居時のフェイスシートと毎日の関わりの中で把握している。 ・把握した思いや意向は個人ファイルと業務日誌で共有し、ケアに反映している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに記録してある。会話の時に記録してある事について、お話ししたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方の様子観察を行い出来る事をして頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適時、話し合いを行いながら、現状を見直しつつ、介護計画を作成している。	・本人、家族に希望を聞き、訪問医や看護師の意見を聞きながら担当者会議を実施し、現状に即した介護計画を作成している。 ・介護計画は3か月ごとに見直し、家族の同意を得て実施している。が、変化があれば都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、日々の様子などを記入し、職員がチェックしながら、定期的に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状態や今後の希望を踏まえ、ニーズに応じたサービス導入を心掛けている。看取りをさせていただく家庭で、エアマットをホームで購入したり、ベッド購入の際も「譲りませコーナー」等を利用したり様々なことを考え実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、外出をしたり、地域との関係を続けながら生活出来る様になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診には職員が付き添い、受診前・後に家族へ連絡している。かかりつけ医がある場合、家族と相談している。	・内科は全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。協力医と良好な関係を築き、利用者を支援している。 ・通院の際は家族の状況に応じて職員が付き添うなど、柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時以外でも、日常の変化や様子など報告、相談が24時間連絡できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院される場合、日頃から受診、往診を通し接点があり情報交換はスムーズ。他医療機関への入院は、介護サマリー等の準備を行っている。退院については、担当医、看護師と話し合いの場を設けたり家族と相談し体制を整えた上で受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合う場をもち、家族の意向をふまえ今後のケア、方針を決める。全職員に今後のケア方法、予測される事を理解してもらいケアに参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に「重度化における対応指針」を本人と家族に説明し同意を得ており、終末期には、家族、医師、看護師、職員が連携し、方針を共有して支援する体制ができている。 ・法人の事業計画に「看取りマニュアルの整備と体制づくり」を掲げ、現在取り組んでいる。 	法人の事業計画で検討されている「看護マニュアル」をベースに、今後、終末期ケアに関する職員研修の実施が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法をミーティング等で学んでいる。順次、講習会にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練では問題点なども話し合い、次回につなげていくようにしている。非常用食料は、十分な量を準備している。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練を実施し、実施後、問題点を話し合い記録し、次回の訓練につなげている。 ・地域との協力体制の構築は今後の課題としている。 ・3日分の食料、水と防寒具などを備蓄している。 	・運営推進会議等で地域との協力体制の構築に、引き続き取り組まれることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような発言はしない。職員の都合だけで、入居者の行動を制限しないよう心掛けている。着替え選び、食事の好み、就寝時間等その方に合わせていくように意識している。	・制止やせかしとなる言葉かけを避け、敬意を持って接し、利用者の意思による行動を支援している。 ・管理者は職員の不適切な対応に気づいたら、その場で注意している。 ・利用者の写真の事業所だよりへの掲載は、個々の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の準備、掃除、洗濯干しや片付け、食器洗いなど入居者が得意とされたり、張り切ってできるような作業を提供している。入居者が何かの作業中でも関心のある作業や楽しみがある場合は、そちらも促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩へ行きたいという入居者に対しては、その気持ちを尊重して、一緒に行くようにしている。居眠りや疲れが見られる時は30分程、午睡を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には自ら選ぶように助言、援助している。起床時や入浴時にヘアブラシ、ひげそりを準備して、身だしなみを整えてもらえる様に促している。行きつけの理容室へ行ったり、外では難しい方は理容室の方が来られ、髪形を整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜を切ってもらったり、米研ぎ、皿への盛り付けなど調理に関わってもらっている。食器洗いは入居者に行ってもらうが、洗い流しなど声掛けが必要な場合は声をかけるようにしている。	・利用者は買い物を手伝い一緒に調理し、料理の出来などを話題に職員と食事を楽しんでいる。 ・お節料理やおはぎなどを職員と作り季節感を味わい、また、誕生会は好みのものや外食で祝い、食事に変化をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重から一人ひとりの1日に必要な水分量をわり出して、摂取出来る様支援している。食事は、体調や状況に合わせて、形態や量の調整を行い、バランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。自立している人には声かけをし、支援が必要な人には職員が行っている。義歯の消毒等は定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつけて一人ひとりのパターンをつかみ、声かけや誘導を行い、なるべく失禁しないように支援している。夜間も個々に合わせて、ポータブルの使用や、トイレの誘導を行っている。	・個人別の排泄パターンを把握し、利用者の様子やしぐさで察知してさりげなく声掛け誘導し、トイレでの排泄を支援している。 ・医療機関退院後の利用者には、おむつ外しを目指した排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な人には、食事と合わせて食物繊維を摂取してもらう。散歩や家事など適度に体を動かせるように支援している。食事には、きのこ類を多めに使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせての入浴は出来ていないが、体調をみながら、その人に合った入浴の支援を行っている。入浴中はゆったりと、くつろいだ気分になって頂けるよう声かけにも配慮している。	・入浴は原則週2回、希望する時間とし、要望や状況に応じて足浴や清拭、機械浴も行っている。 ・入浴を好まない利用者には時間を変えたり声掛けを工夫し、さりげなく誘導している。 ・季節に応じて菖蒲湯や柚子湯で気分を変え、入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床する時間は、その日の入居者の状況に合わせて意思をたずねて入床の支援をしている。穏やかな雰囲気を作り出し、休む様な気分になれる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理や服薬支援は、それぞれ合わせて行っている。処方内容や副作用等については薬表を添付して、その都度確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が行えている訳ではない。本人の希望と意志が必ずしも一致している訳ではないが気分転換の支援は行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により散歩やドライブ、美容院などに出掛けている。普段行けない場所には誕生日やイベントを介して出掛けている。	・外出支援に力を入れており、日常的には週3回、交代で職員と食材の買い出しに、希望に応じて近隣の散歩に出かけている。 ・週数回、宮ヶ瀬ダムや森の里などへのドライブに加え、誕生日の夕食やお花見など外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のおこづかいは、施設側で管理している。個人で現金を持っている方は、御家族の了解を得て本人に支払ってもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の状況にあわせて、年賀状作成を支援している。自ら電話をかける事は無いが、かける事や家族からの電話を取り次ぐことを禁じてはいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と共に掃除や片付けなどを常に行っている。季節感のある入居者の作品などを壁に飾ったりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく広い居間は季節の花が飾られ、温湿度が適切に保たれ心地良い空間になっている。 ・できる利用者には居間・廊下の掃除、洗濯物たたみをしてもらい、家庭の一室を思わせる活気ある生活の場となっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で外を眺めたり出来る場所にお連れしたり、気の合った者同士、隣り合わせに座れるよう席順を変えたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や物を居室に持ってきていただき、生活しやすいように整えたり、日常的に使っていただいたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンとロッカータンス付の居室に、好みのカーテンや使い慣れたベッド、椅子、仏壇などを持ち込み、自分らしい部屋にし、読書や手芸を楽しむ利用者もいる。 ・事業所は必要に応じエアーマットを提供し床擦れ防止に努めている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所やゴミの分別場所が分かるように表示したり、家事全般にわたって出来る事をしてもらえるように支援している。		

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみこ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。(参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深め、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えることを通していきいきとした生活を送る事ができるようにと考えている。理念は職員会議の中で理解できるように話をしている。個人を尊重し、希望することがあればその方に応じて実現できるように職員間で話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催する展示会に出展、見学したり、祭りの盆踊りに参加したり、ミニデイに参加し交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の方からの相談があれば気軽に応じている。入居者の生活や活動内容を載せたミニ新聞を地域や家族に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見やサービスを向上に活かしている	会議でGHの現状を伝え、地域の方々、又会議への出席者の話をうかがい年6回推進委員会を開催し情報を共有し運営に反映している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚木市の52介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。管理者は会の事務局を担当し、市長・市議会とも話し合いの場を設けている。また、市と協力し人材確保や合同研修を行い、それによりサービスの質の向上に取り組んで成果を上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為にしているが、希望があれば一緒に外に行くことにしている。魔の三大ブロックについては、最初に説明を受け理解し、日頃から気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	発言や行動による虐待はないか又どの様な行為が虐待にあたるのか等話し合える場を設けている。市内の介護施設を対象に行われた言葉による虐待に関しての研修に積極的に参加し知識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様があり、生活面、金銭面等、後見人の方とは常に連携をとっている。制度を理解する為、職員の代表が研修に参加し後日会社全体の研修の中で勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時も時間をかけ理解していただけるようになっている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するようには配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご様子お知らせシートを送付し日頃のご様子や変化を毎月お伝えしている。ご意見シートの設置しご意見がいただける機会を設けている。ご面会時に雑談を交えて話しやすい環境作りを心がけている。ご家族からの不満や苦情には、速やかに改善する様対処している。年6回運営推進会議を開き地域の方々とも積極的に意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せ細かいことは言わずに見守るようにしている。また提案制度を採用している。年2回職員面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より人員を多く当てるようにしている。他に土日やイベント時には職員を増員し対応している。賃金面でも能力に応じて格差をつけている。休憩所の整備等も徐々に行っている。昨年度から有給休暇をとるリフレッシュ休暇制度を導入している。また外部研修への参加・内部研修・メンタルヘルス研修も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと思っている。各委員会を作り職員が主体的に企画立案できるよう時間を設けている。また、自社にて講師を呼び研修会を開催したり、実践者研修への参加を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなくほかの職員も参加できるように配慮している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りで作成したフェイスシートを参考にしたり、入居直後の本人の行動から不安や要望を汲み取り、本人の安心を確保するための関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き、不安や要望に応えられるよう努め、家族との信頼関係ができる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	質の向上のためにも力を入れたいと思っている。各委員会を作り職員が主体的に企画立案できるよう時間を設けている。また、自社にて講師を呼び研修会を開催したり、実践者研修への参加を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意なことをしてもらい、職員も助けられている。食事を作る時や、季節のならわし等、入居者から学ぶ事が多くある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子を書面にして毎月送付している。面会の時等には、日頃の様子を伝えたり、今までの生活を聞き、ケアに活かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、家族又入所前に親しくしていた友人等に気軽に面会に来て頂けるよう雰囲気作りに努めている。場所についてはイベント企画等で出来るだけ出かけられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通点（出身地、趣味、嗜好等）を話題にし日常会話はずむよう努めお互いの関係が深まるよう支援している。利用者が各々出来る日常の家事を分担し、お互いがお礼を言い合える関係を作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなられ退所された時、お盆、法事等にお線香をあげに出かけている。退所された利用者様の場合自宅に伺い、お話する等し、本人並びに家族との関係を切らないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の何気ない会話の中から、利用者様の思いや希望をくみ取るよう努めている、話し易い介護員であるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から詳しく生活歴、暮らし方等お話をうかがいフェイスシートを作成。面会時に気楽に話して頂き、その中からこれまでの暮らし方を把握し、情報の蓄積を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご様子は個人記録に残し職員全員が把握出来る様に努めている。心身状態や入居者様の出来る事への対応も記録、現状把握しすばやく対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望をうかがい反映出来る様に努めている。月1回のミーティングで職員間で現状を確認し意見を出し合って、今必要な事をまとめケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容や結果は日常記録や業務日誌に記入し、個人の様子は個人記録に記入して残している。記載内容は毎朝のミーティングで職員間の情報共有を量っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状態や今後の希望を踏まえ、ニーズに応じたサービス導入を心掛けている。看取りをさせていただく家庭で、エアマットをホームで購入したり、ベッド購入の際も「譲りませコーナー」等を利用したり様々なことを考え実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、地域のイベントのミニデイ、夏祭り、公民館祭り作品出品などに積極的に参加し、地域の人とつながりを持てる様心がけ、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診では職員がつきそい、受診結果をふまえて対応している。受診前後にはご家族と連絡をとり報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時及び日常の変化に対しても看護師と24時間常に連絡がとれるようにしている。訪問等で個人的に看て頂くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院される場合日常より受診や往診にて接点があり情報交換はスムーズに行えている。他医療機関へ入院する時は介護サマリー等の準備を行っている。退院については担当医や看護師と話し合ったり、家族と相談し整える等の準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や看護師、ご家族と話し合い対応を検討し職員は内容を理解しケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等話し合ったり対処方法等会議等で話し合ったりしている。研修も実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した非難訓練を年2回実施。訓練に対して問題等ある場合は改善していくようにしている。備蓄品等も用意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いを心がけ、本人に合わせた会話に努めている。(ゆっくり話す、方言を使うなど)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけるよう努力していますが、まだわかっていないところが沢山あります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	まだ、その人らしいおしゃれをつかめていません。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に協力して行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を一人ひとりに決め、水分摂取表に摂取時間、量を記入している。またその時の体調等を配慮し、個々に食事内容量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。又、必要に応じて、歯科医に往診してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに気配りをしトイレでの排泄を促している。又、声掛け等でトイレへの誘導を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に良いとされている飲み物食材を多く取り入れ、その方に応じた量、形容を常に提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調を確認したうえで、入浴への声掛けを行う。本人の希望時間、又は拒否がある場合、別の時間、日に変更している。入浴剤、季節の（冬至、菖蒲湯）等の提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度の調整。不穏になられた方はその都度対応して不安を解消して眠れるように支援。独りが不安な方は職員が付きそう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、目的等分らない時はファイルを見たり、先輩方に聞いたり、その都度確認する様努めている。きちんと服薬できたか最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のお好きな事を把握したり、昔の思い出話等積極的な声かけに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出等のイベント、買い物等、まだ経験がないので、支援できているとは言えない。散歩はご本人の体調等を見て、支援できる様努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等、経験できていないので、支援できているとは言えない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を書いております。郵便局へはがきを買いに行き、自分で書けない入居者様は、シールを貼ったり、手作りのはんこを押したり、一つでも本人の手を使って、作成し、出来上がったら、皆でポストに出しに行きます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好きな場所やソファに座ってテレビや音楽を聞いたり出来る。その季節に合った絵を飾り、行事の時の皆で作った絵が飾っている。温度や湿度も調節している。お出かけた時の写真も貼り、廊下を歩きながら入居者様がながめている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレに入り、エレベーターの前にイスがあつて、兎に餌を与え食べるのをみている入居者様もいる。ソファに座りぬいぐるみをいっぱいかかえ赤ちゃんや動物とのふれあいを楽しんでいる方もいます。又、会話もはずんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、ゆっくりと1人になった時、くつろげる様、昔、使っていた物や、思い出の物が、置いてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中は手すりがあり、イスも転がらないように、重量があり、安全に出来ている。ベランダへ出る時に車イスが出れる様な、木の段があるとよいと思います。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

どんぐり庵

作成日

平成26年12月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	37	その人らしいおしゃれや身だしなみができるように支援ができていない。	その人らしいおしゃれや身だしなみが、行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしいおしゃれや身だしなみについて、職員全員が考え、情報を共有する。 ・その人らしいおしゃれ・身だしなみを行う。 	2週間
2	45	希望に合わせての入浴が、できていない。	希望に合わせて入浴する。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に合わせて入浴する支援方法を職員全員で考える。 ・考えた内容を情報共有し検討する。 ・検討した内容を実施する。 	2週間
3	48	役割、楽しみごとの支援を全員が行えていない。	全員が張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が張り合いや喜びのある日々を過ごす方法を職員全員で考える。 ・考えた内容を情報共有し検討する。 ・検討した内容を実施する。 	2週間
4	49	本人の希望を把握し、出かけられるように支援できていない。	外出支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにしたら本人の希望を把握し、出かけられるように支援できるかを職員全員で考える。 ・考えた内容を職員で情報を共有し検討する。 ・検討した内容を行う。 	2週間
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。